

Z会東大進学教室

高1 難関大英語 S

高1 難関大英語



1章 時制

要点

■ 確認問題 1

解答

- (1) その女優はよくミュージカルに出演している。
- (2) 彼は自分の会社を売らなければならないだろうということを後悔している。

■ 確認問題 2

解答

与えられた英文は「その用語は以前よりもより広い意味を持つようになっている。」の意味。

used to は「過去の状態」を表す。

選択肢の意味は以下の通り。

ア (かつてここに教会があった。) ○

イ (私は早起きに慣れている。)

ウ (ナイフは切るために使われる。)

■ 確認問題 3

解答

- (1) 私はジョーをパーティーには招待しない予定である。
- (2) 我々は将来さらに長寿になるだろう。

■ 確認問題 4

解答

- (2), when を削除。(今年の夏はこの 20 年で私たちが経験した中で最も暑い夏である。)

■ 確認問題 5

解答

had left (家に着いた時、私は傘をバスに忘れたことに気づいた。)

■ 確認問題 6

解答

- (1) 工 (2030 年までに私たちの町の人口は倍増するだろう。)
- (2) ウ (彼らが到着するまでに、ショーは始まっているだろう。)

■ 確認問題 7

解答

- (1) その女優は今, ニューヨークのミュージカルに出演している。
- (2) 彼は彼女に自分の仕事を与えると決めたことをだんだん後悔している。

■ 確認問題 8

解答

- (1) be having
- (2) has

■ 確認問題 9

解答

I was just beginning to take a bath when all the lights went out.

■ 確認問題 10

解答

- (1) 私は金曜までそのホテルに滞在している。
- (2) 7:45 には朝食を食べているだろう。

■ 確認問題 11

解答

ア (先週の金曜日のテストの後, 私はぐったりしてしまった。テストまでの1週間毎日一日中勉強していたからだ。)

問題

【1】

解答・解説

A.

- (1) are you putting ; am going ; Are you coming ; Do you mind ; bring

A : どうしてセーターを着ているの？

B : 川沿いを散歩しようと思ってね。君も来るかい？

A : 私も行きたいわ。犬を連れていってもいいかしら。

○ I am going for a walk … / Are you coming …? 近い未来の予定を表す現在進行形の用法。現在形では習慣を表すことになる。

cf. Do you come here often? (ここへはよく来るのですか。)

○ Do you mind if S V ? 「…しても構いませんか。」mindのように、意思によって左右できない知覚や心の動きを表す動詞は、普通は進行形にしない。

- (2) Don't you see ; see ; am not wearing ; does it say ; says

A : 止まって。掲示が見えないのかい？

B : 掲示は見えるんだけど、メガネをかけてないので何て書いてあるのか読めないんだよ。何て書いてあるの？

A : 「この道路は工事のため通行止」と書いてあるよ。

○ wear は「身に着けている」という状態を表すが、現在の習慣よりも一時的な状態を強調して表したい場合は進行形にすることができる。

○ 「書いてある」という意の時、say は状態動詞である。

- (3) never listens ; is always thinking

「彼女は人が言うことにまったく耳を傾けない。いつも何か他のことばかり考えているんだ。」

○ think は心の動きを表す動詞だが、ここでは非難を表し、進行形にすることができる。

B.

- (1) phoned ; got

「昨日、君に2度電話したが、誰も出なかった。」

- (2) have you been ; have just started ; did you find ; answered

A : 失業してどれくらいになるのですか。〔継続〕

B : 今は失業中ではありません。新しい職に就いたばかりなのです。〔完了〕

A : どうやってその仕事を見つけたのですか。

B : 新聞広告を見て応募したんです。

- (3) have just agreed ; did not realize ; wanted

A : 一緒に行くことに賛成したばかりなのに、なぜ準備していないの？〔完了〕

B : でもすぐに行ってもらいたいだなんて思わなかったんだよ。

C.

(1) has been polishing

「トムは午前中ずっとその車を磨いているが、彼の主人はまだ満足していない。」

○ be satisfied with ~ 「～に満足している」

○動作が完結しておらず、まだ未来にまで及ぶことを暗示する時は、現在完了進行形が適当。

(2) has happened ; have been waiting ; has often kept ; has never been

「何かジェーンに起こったのだろうか。もう1時間も待ち続けている。彼女は私を待たせたことはこれまでに何度もあるけど、こんなにも遅れたことは今までに1度もない。」

D.

(1) kept ; had seen

「その老人とは以前どこで会っただろうと思いながら、彼女は彼のことを見続けた。」

(2) thought ; left ; was ; arrived ; learned ; had just left ; found ; had used

「私は11時10分にバスが出ると思っていたので、11時にバス停に着いてバスが出たばかりだということを知った時、とてもがっかりした。私は古い時刻表を使っていたことに、後になって気がついた。」

○ I thought my bus left at eleven ten. (私は11時10分にバスが出ると思った) 確定的な未来の予定を表す現在形の用法 My bus leaves at eleven ten. に I thought がついたことにより、時制の一致が起こった形。

【2】

解答・解説

(1) will snow ; snows

○ if it will snow [know の目的語になる名詞節で未来の内容は単純未来の will を使用。(if = whether)]

○ if it snows [条件を表す副詞節では単純未来の内容は現在形で代用する(単純未来の will を用いない)。]

(2) was playing ; arrived

○ was playing [過去のある時点における進行中の動作]

○ arrived [過去のある時点の動作]

(3) lent ; had bought

○ lent [過去のある時点の動作]

○ had bought [過去のある時点(ここでは lent)より、前の動作(=大過去)]

(4) began ; have not finished ; will lend ; have finished [finish]

○ began [a week ago とあるので過去のある時点を表す。]

○ have not finished [yet があるので現在完了が一般的。]

○ have finished [finish] [as soon as 以下は時を表す副詞節で未来完了の内容は現在完了形で代用する(単純未来の will は用いない)。また finish にはそれ自体に完

了の意味があるので現在形でも可。]

- (5) get ; will have finished
- get [by the time 以下は時を表す副詞節。単純未来の内容は現在形で代用する (単純未来の will は用いない。)]
 - will have finished [未来のある時までの動作の完了]
- (6) will have read
- will have read [未来のある時までの動作の経験]
 - once more 「もう1度」 (= again)
- (7) had not gone ; had left
- (直訳) 「財布を置いてきたことに気づいた時、そんなに遠くまで行っていなかった。」
- had not gone [過去のある時点までに完了していない動作]
 - had left [過去のある時点 (ここでは found) より、前の動作 (= 大過去)]
 - when = before
- (8) went ; has not spoken ; has forgot(ten) ; learned [learnt]
- went [five years ago とあるので過去のある時点を表す。]
 - has not spoken [since があるので現在完了「継続」]
 - has forgot(ten) [現在完了「結果」]
 - learned [過去のある時点の動作]

【3】

解答

ガリレオは月や他の天体をずっと近くに見せる望遠鏡を発明した。ところが、望遠鏡で自分が見たものを発表すると、投獄された。パルトルミ・チモニエというフランス人がミシンを発明すると、腹を立てた衣類をつくる職人たちはミシンを使い始めた工場を破壊した。ジェームズ・ワットは人生に失敗したと思われ、そして彼自身もそう思っていた。もっとも、彼はまもなく世界を大きく変えることになった蒸気機関を発明することに成功していたのだけれども。

【4】

解答

- A. (1) ② (2) ① (3) ② (4) ① (5) ④ (6) ④
- B. ③, ⑤, ⑦, ⑩

全訳

それは私が16歳の高校生だった時に始まった。若者向けの人気雑誌を読んでいる時に、日本のペンパルを求めている世界中の若者の住所リストがあるのに気づいた。私はクラスの子たちが海外から来た分厚い航空便の封筒を手に入れているのを何度も見たことがあった。ペンパルがいることは、当時流行であった。自分もやってみるか、と私は思った。それで私はボストンに住む「マーガレット・K」さんという人の住所を選んだ。以前、クラスの女の子が、女の子はピンクの便箋に書かれた手紙を読むのが好きなのよ、と言っていたことを思い出して買いに出かけた。

「親愛なるペンパルへ」と書き出したが、そこでやめた。非常に神経過敏になり、どう続けたいのか、何を言えばよいのかまったくわからなかった。散々苦勞して手紙を書き終えたが、1ページにも満たなかった。遠いアメリカからの返事は、思ったより早く届いた。「あなたの手紙を受け取って驚きました。」とマーガレットは書いていた。「どのようにして私の住所が日本の雑誌に掲載されていたのかわかりません。というのも、ペンパルを求めたことはなかったからです。けれど、日本のようなすてきな国の人から便りをもらうことは実に素晴らしいことなので、あなたと文通するのを楽しみにしています。」私は何度その手紙を読み返したかわからない。

マーガレットに手紙を書く時に、彼女を驚かせるようなことは書かないように心がけた。英語はマーガレットにとってお手のものであろうが、私には外国語であったので、日常生活のことしか書けなかった。けれど、心の中のどこかにあえて表に出そうとはしなかった甘酸っぱい感情があった。彼女の方はどうかと言えば、マーガレットは長い手紙を書いてくれたけれど、自分のことについてはほとんど何も漏らさなかった。

本とか、雑誌とか小さな贈り物とかを同封した大きな封筒が届き始めた。きっとマーガレットは金持ちのアメリカ人女性で、彼女の送ってくれる魅力的な贈り物と同じくらい美しいと思った。私たちの文通による友情は、大いに成功したと私は思った。しかし、私の心からどうしても離れないことが1つあった。女の子に年齢を尋ねるのは失礼なことだとわかってはいたのだが、写真を送ってくれるように頼むのは構わないだろうと思った。それで、写真を送って下さいという内容の手紙を書いたら、やっとその返事が来た。マーガレットは今のところ、送るのに適当な写真を持っていないが、いつか送りますとだけ書いてあった。彼女は、「平均的なアメリカ人女性」は自分よりもずっと見た目がいいとつけ加えた。

数年が経過した。手紙のやり取りは少なくなっていったが、途切れることはなかった。そうしているうちに、私は大学を卒業し、就職し、結婚し、子供を持つようになった。いつの日かマーガレットに会え、また自分の家族も彼女に会うことになるという望みをまだ捨てていなかった。

そしてある日、見かけない字体で宛名が書かれた大きな航空便の封筒を受け取った。その中には、数冊の雑誌とアリスという名前の婦人からの短い手紙が入っていた。その手紙には「このようなことをあなたにお知らせするのはとても辛いのですが、先月マーガレットは教会から自宅へ車で帰る途中交通事故に遭って亡くなりました。私たちは同じ高校に通い始めて以来60年間、親友だったのです。マーガレットはあなたからの便りをもらってとてもうれしいとよく言っていました。1人暮らしをしていましたが、たくさんの友人がおり、遠くの人でも近くの人でもいつも他の人を助けようとしていました。」と書いてあった。写真も同封されてあった。マーガレットは、自分が死んだら写真を送るように友人に頼んでおいたのであった。写真に写っているその顔は美しく優しさにあふれていた。それは私がまだ若く、彼女がすでになん年を取っていた時でさえ、愛したと思える顔であった。

注.....

ℓ. 1 ○ 16-year-old 「16歳の」後ろの high school student を修飾している。year に s がついていないことに注意。

ℓ. 4 ○ Why shouldn't I do? 「自分も～してみてもどうか。」

- ℓ. 5 ○ pick out ~ 「~をつまみ出す, 選ぶ」カタカナ英語の「ピックアップする」の影響を受けて, pick up ~ (～を拾い上げる, 取りに行く, 乗せる) と混同しないこと。
- ℓ. 15 ○ take care to *do* 「気をつけて…する」
- ℓ. 16 ○ naturally 「①当然, ②自然に, ③生まれつき」
- ℓ. 17 ○ everyday matters 「日常生活のこと」 < matter 「事, 事件」
○ romance 「恋愛関係, ロマンズ」
- ℓ. 20 ○ contain ~ 「～を含む」
- ℓ. 23 ○ get + O + out of *one's* mind 「Oを忘れる, 頭に入れない」
○ impolite 「無礼な」
- ℓ. 24 ○ it would be all right to *do* 「…しても構わないだろう」 < all right 「結構な」
- ℓ. 25 ○ suitable 「適した」
- ℓ. 28 ○ meanwhile 「その間」
- ℓ. 31 ○ handwriting 「筆跡, 書体」
- ℓ. 32 ○ note 「短い手紙」

【5】

解答・解説

- (1) The express train for Osaka leaves at eight
○ for ~ 「～行きの」〔「目的地」を表す〕
- (2) He told me that she had arrived safely
- (3) She is getting breakfast ready
○ get + O + C 「OをCの状態にする」
= She is getting ready for breakfast.
○ get ready for ~ 「～の準備をする」
cf. be ready for ~ (～の準備ができている)

MEMO

2章 助動詞

要点

■ 確認問題 1

解答

My daughter will not listen to me.

■ 確認問題 2

解答

ア (「ちょっと休みましょうか。」「ええ、そうしましょう。」)

■ 確認問題 3

解答

- (1) 私たちは同じ職場で働いていて、一緒によくコーヒーを飲んだものだ。
- (2) 多くの人はずかしの時に備えて貯金するよりも、自分の欲しいものにお金を使ったがる。

■ 確認問題 4

解答

事実は仮説を立てるために作られるべきではない。

■ 確認問題 5

解答

ア (「マイクはニューヨークに住んでいるはずがない。彼は2カ月前にロンドンに引っ越したのだから。」) 話者はすでにマイクが2カ月前にロンドンに引っ越したことを知っているの
で、アが最適。

■ 確認問題 6

解答

- (1) そのニュースはあまりに奇妙なので、信用できないかもしれませんね。
- (2) 彼の外見はあまりに変わってしまったので、彼のことがわからないのは当然だ。

■ 確認問題 7

解答

- (1) That restaurant must be very good. It's always full of people.
- (2) You can't be serious.

■ 確認問題 8

解答

need ; have, mended

■ 確認問題 9

解答

- (1) 彼女が間違えて私の傘を持っていったはずがない。
- (2) 彼はタクシーに傘を置き忘れたに違いない。
- (3) 傘を持ってくるべきだった。

問題

【1】

解答・解説

- (1) (a) トマトソースのないイタリア料理を想像することができますか。〔「能力」を表す can。〕
- (b) 彼女が40歳を超えているはずなどない。まだ20代に違いない。〔「可能性」を表す can, 話し手の強い確信を表す must。〕
- (c) テーブルの上のケーキはどちらを食べてもいい。〔「許可」を表す can。〕
○ either 「(2つのうちの) いずれか一方の」
- (2) (a) 今度の金曜日は休みをとってもよい。〔「許可」を表す may。〕
○ take ~ off 「~を休みとしてとる」
- (b) 彼は頭がいいかもしれないが、あまり常識はない。〔「可能性」を表す may。〕
○ common sense 「常識」
- (c) 王様が長生きしますように！〔王様万歳！〕〔「祈願」を表す may。〕
- (3) (a) 私は彼女が試験に通るかもしれないと思った。〔時制の一致による might。〕
- (b) 「窓を開けてもよろしいですか。」「ええ、もちろん。」「現在を表す might。控え目に「許可」を求めている。〕
- (c) 今夜真相をつかめるかもしれない。〔現在を表す might。「可能性」を表している。〕
cf. may よりも可能性は低い。
- (4) (a) 「彼女は今どこにいるだろうか。」「今頃はもうそこにいるはずさ。飛行機で1時間しかかからないんだから。」「推量」を表す should。〕
○ by now 「今頃はもう」
- (b) 学生は皆、決められた日までに作品を提出しなければならない。〔「義務」を表す should。〕
○ submit ~ 「~を提出する」 (= hand in ~)
○ work 「作品」〔芸術などの「作品・著作」を表す場合は可算名詞であるが、「工芸品・彫刻」などを表す場合は不可算名詞。〕
○ given 「決められた；一定の」
- (c) 同じ仕事をしていても女性は男性よりも賃金が少ないとは理屈に合わない。〔It is ~ that S (should) do. の形式で「意外・驚き」の感情を表す。~の部分に来る主な形容詞は strange, surprising, natural, amazing 等がある。〕
- (5) (a) ジョン、ドアを開けてくださる？手がふさがってるのよ。〔will よりも控えめで丁寧な would。意味の上では「現在」を表す。〕
○ get the door 「(他の人のために) ドアを開ける」
- (b) 私たちはみんなで彼の寝タバコをやめさせようとしたが、彼はどうしてもそうした。〔「過去の固執」を表す would。〕
○ stop ~ (from) ...ing 「~が...するのをやめさせる」

- (c) 彼は一言も言わずに何時間も座り込んでいることがよくあった。〔「過去の習慣」を表す would。〕
cf. He *used to* sit for hours. 〔「現在との対比」を表す。〕

【2】

解答・解説

- (1) be able to 〔未来の「能力」を表す場合, can の代わりに be able to を用いる。〕
 (2) were allowed to 〔got permission to; were permitted to〕 〔過去の「許可」を表す場合, 時制の一致により may が might になる場合を除いて, be allowed to を用いる。〕
 (3) would rather
 ○ would rather ~ than ... 〔…するより～したい〕
 (4) will you
 ○ 命令文, will you? 〔…しなさい, …してください〕 〔付加疑問〕
 (5) shall we
 ○ Let's ..., shall we? 〔…しようよ〕 〔付加疑問〕
 (6) cannot; too
 ○ cannot ~ too ... 〔どんなに～しても…しすぎることはない〕
 (7) may 〔might〕 as well; as
 ○ may 〔might〕 as well ~ as ... 〔…するくらいなら～した方がよい〕
 (8) help laughing 〔but laugh〕
 ○ cannot help ...ing = cannot but *do* 〔…せずにはいられない〕

【3】

解答・解説

- (1) イ
 A: 指示はスペイン語で書かれていたんだよ。ほくはそれらを彼女のために英語に翻訳してあげたんだ。
 B: 翻訳する必要はなかったのに。彼女はスペイン語がわかるのよ。
 ○ needn't have *done* 〔…する必要はなかった (のに…した)〕
 ○ translate ~ into ... 〔～を…に翻訳する〕
- (2) ① **エ** ② **ア**
 A: ビルはどうしたんだろう。8時と言ったのにもう8時半だ。彼が現れる様子もないし。
 B: 僕らが招待したことを彼は忘れてしまったのかもしれない。彼ってかなり忘れっぽいからね。昨日電話して念を押しておくべきだったよ。
 ○ may have *done* 〔…したかもしれない〕
 ○ should have *done* 〔…すべきだった (のにしなかった)〕
 ○ remind ~ 〔～に気づかせる; ~に念を押す〕

【4】

解答

「全訳」下線部(1), (2)参照。

全訳

幸運にもよい方向感覚に恵まれて生まれてくる人々がいる。彼らは、たとえある場所を1度しか訪れたことがなくても、何年も後にそこを見つけることができるであろう。私は極端に方向感覚が悪い不幸な人間の1人である。(1)ある場所を何度も訪れていたとしても、それでもそこへ行く途中で迷ってしまう。

私は10代の頃は、とても内気だったので、まったく知らない人に思い切って道を尋ねるようなことは決してしなかった。(2)そういうわけで、私はぶらぶらと歩きまわって、偶然目的地に着くことを願ったものだった。

注

- even if … 「たとえ…でも」〔譲歩を表す接続詞〕
- those A who [この those はAが who の先行詞であることを表す用法で日本語には訳出しないのが普通。]
- extremely 「極端に」 < extreme (形容詞)
- by chance 「偶然に、たまたま」 (= by accident ; accidentally)

【5】

解答

(1) ③ (2) ③ (3) ④ (4) ③

全訳

現在議論されているのは、心身に障がいを持つ人たちのために私たちが進んでどれだけの援助と活動を行うのかという問題である。多くの人は、社会が長年にわたって福祉を充実してきたと思っている。しかし、もし過去を振り返るなら、これが正しくないとわかるだろう。そのよい例は先史時代の文化遺跡で見ることができる。

数体の人骨がイラクのシャニダール洞窟で見つかった。それは4万年以上も前に存在していたネアンデルタール人の家であった。これらの人骨の1つは、40歳ほどの、その当時としては老年の域に入る男性のものであった。この男性は落石によって死んだと考えられている。その骨を綿密に調べたところ、その男性の右腕は十分に発達しておらず、肘から下が切り落とされていたことがわかった。歯の状態もまた、他のネアンデルタール人のものと似ていなかった。歯には、まるで右腕のないことを埋め合わせるために使用されていたかのような、非常によく使われた痕跡が認められた。

幼い頃からそれほどの障がいを持った人が、どのようにして生き残って大人になり、老年になるまで生き長らえることができたのだろうか。このような大昔の社会は厳しい生活条件に直面していた。肉を捜し求めることのできる人はわずかしかなかった。障がいを持つ人は、洞窟の近くにいる必要があったに違いないし、また肉を与えられていたに違いない。このことは、以前考えられていたよりも個人に対する配慮の度合いがはるかに大きかったことを示していると思われるのである。

事実、この部族の一員の男性に対して行われた気づかいは、今日の社会においても常に見られるものではない。このような配慮は、人類が将来においてさまざまなものを獲得するの有可能にした一致団結の意識を示している。このようなことを考えると私たちは障がいを持つ人たちに対して十分なことをしているのだろうか。現代社会が行ってきた努力について過大な評価をするよりもむしろ、私たちが「文明化以前」の社会の努力に匹敵する努力さえしているのかどうかを考えるのが賢明だろう。

注

- ℓ. 2 ○ handicapped 「(心身に) 障がいのある」
 - caring < care ~ 「~を気づかう」
- ℓ. 5 ○ skeleton 「骸骨」
 - cave 「洞窟」
 - tribe 「種族；統，類」
- ℓ. 11 ○ make up for ~ 「~を埋め合わせる」
- ℓ. 15 ○ indicate ~ 「~を示す」
- ℓ. 16 ○ individual 「個人」
 - assume ~ 「~を想定する」
- ℓ. 18 ○ unity 「統一」
 - cooperation 「協力」
- ℓ. 20 ○ rather than ~ 「~よりむしろ；~ではなくて」
 - effort 「努力」
- ℓ. 21 ○ precivilized 「文明化以前の」

[6]

解答・解説

- (1) must 「ご冗談でしょう。」
 - I'm sure (that) ~ 「きっと~だと思う」
 - joke 「冗談を言う」
 - must 「…に違いない」〔話し手の強い確信を表す。〕
- (2) can't [cannot] 「彼がまだ生きているはずなどない。」
 - It is impossible that S V ~ 「~はとてもありえない」
 - can't [cannot] 「…のはずがない」〔「可能性」を表す can。〕
- (3) need not, doesn't ; to, doesn't have to 「彼は宿題をする必要はない。」
 - need not 〔助動詞なので、S が He だからといって needs not としない。〕
 - doesn't need to do 〔動詞なので to 不定詞をとる。〕
 - doesn't have to [have [has] to の否定形は「…する必要はない」の意味。〕
- (4) Would [Do] ; mind ; smoking, Would [Do] ; mind ; if 「タバコを吸っても構いませんか。」「どうぞ。」
 - Would [Do] you mind my [me] ...ing? 「…しても構いませんか」
 - mind one(s) ...ing 「人が…するのを嫌がる；気にする」

- cf. Would [Do] you mind ...ing? (...してくれませんか) [依頼表現]
- Would [Do] you mind if ~ 「～しても構いませんか」
- (5) Can 「彼は好きな時にはいつでも車を持ち出してもいいのですか。」
- be allowed to *do* 「…してもいい」 [「許可」を表す。]
 - whenever ~ 「～する時はいつでも」 [時を表す副詞節なので、未来を表す *will* を用いない。]
 - can [「許可」を表す。]
- (6) used to be 「かつてここにアイスクリームの店があったが、今は閉店している。」
- used to be [現在との対比で用いる過去の状態。]
- (7) may [might] well 「あなたがそう言うのももっともだ。」 [= You have good reason to say so.]
- may [might] well *do* 「…するのももっともだ」

MEMO

3章 不定詞

要点

■ 確認問題 1

解答

イ「姫路城はユネスコによって世界文化遺産に登録される日本で最初の場所の1つであった。」

■ 確認問題 2

解答

- (1) イ「祖母の趣味は庭で野菜作りをすることです。」to不定詞は、未完了のことを表す時に、動名詞はすでに実現していることを表す時に使われる。ここでは「趣味」なので、すでに「野菜作りをしている」必要がある。
- (2) イ「フリークーポンを手に入れるためには、名前とメールアドレスを記入して登録さえすれば結構です。」

■ 確認問題 3

解答

- (1) イ「トミー、行儀よくしてもいい年頃だよ。」behave oneselfは「行儀よくする」の意味。
- (2) ウ「そのおばあさんは扱うのが非常に難しい人だとわかった。」

■ 確認問題 4

解答

- (1) ウ「よく指摘されることだが、環境を守る最善の方法は、不要なことを一切しないことである。」
- (2) エ「残念ながら、このシャツには物を入れるポケットがない。」

■ 確認問題 5

解答

ア「私が止めたのに、彼女はその儲け話に乗った。」thoughの後ろは、I told her not to take part in it という文が短縮された形になる。

■ 確認問題 6

解答

知性を備えているかどうかを本当に測るものは、やり方をどれだけたくさん知っているかではなく、どうしたらよいかわからない時、どのように行動するかである。

■ 確認問題 7

解答

イ「君が彼女の前でその問題に触れなかったのは思いやりがあったね。」元の文に戻すと、
It was considerate () you not to mention … となる。

■ 確認問題 8

解答

ウ「その男はいわば、場違いな人だ。」選択肢はいずれも独立不定詞になっている。ア「～は言うまでもなく」イ「～とは言わないまでも」ウ「いわば (= as it were)」エ「～は言うまでもなく」。なお、a fish out of water は「場違いな人間」という意味。

■ 確認問題 9

解答

- (1) 最悪のことはまだ起きていない。[これからもっと悪いことが起きる。]
- (2) この小説は来週返却すること。

■ 確認問題 10

解答

- (1) moving → move 「テーブルを動かすのを手伝ってくれないか。」
- (2) that they make → them make 「私の親友は彼らが彼女の誕生祝ケーキを作るのを手伝った。」

問題

【1】

解答

- (1) オ (2) エ (3) カ (4) イ (5) ウ (6) ア
(7) ク (8) キ

解説

- (1) (最善の方法は急がず着実にやることだ。)[名詞用法「補語」]
オ (難しいのは何をすべきかを知ることだ。)
○ what to do = what I should do
- (2) (私は旅先で読む本を買いたい。)[形容詞用法「限定」]
エ (彼には扶養家族がない。)
- (3) (その列車に間に合うように早く起きた。)[副詞用法「目的」]
カ ((約束の時間に) 間に合うように到着するためにタクシーに乗った。)
○ in time 「間に合って」 cf. on time (時間通りに, 定刻に)
- (4) (あなたに会えてうれしい。)[副詞用法「原因・理由」]
イ (会議であなたに会えなくて残念だった。)[否定語 not は to 不定詞の前。]
- (5) (彼の言ったことを信じるなんてあなたはなんと愚かなんだろう。)
ウ (このような妻を持つなんて私は幸せ者だ。)[副詞用法「判断の根拠」]
- (6) (騒音はだんだん大きくなって建物全体に響き渡った。)[副詞用法「結果」]
ア (ある朝, 目が覚めてみると私は有名になっていた。)
○ find + O + C 「OがCであることに気づく」
- (7) (彼は賢いことにこれを理解できる。[← 彼はこれを理解できるほど賢い。])[副詞用法「程度」]
ク (彼は勇敢にもそうした。[← 彼はそうするほど勇敢だった。])
○ ~ enough to do = so ~ as to do 「…するほど(十分に)~」
- (8) (この水は飲んでも大丈夫だ。)[副詞用法(形容詞を修飾・不定詞が文の主語を意味上の目的語とする。)]
キ (ジョンはだましやすい。)

【2】

解答

- (1) for ; to get [be] (2) of ; to go out (3) as not to
(4) too ; for most students (5) Would ; like to ; to

解説

- (1) It is ~ for 人 to do 「人が…するのは~だ」[~の部分は, 「難易・妥当・可能・必要」などを表す形容詞。]
- (2) It is ~ of 人 to do 「…するなんて人は~だ」[~の部分は人の性質を表し, 人を主語にすることができる形容詞。]

(3) so as (not) to *do* 「…する [しない] ために」 (= in order (not) to *do*) [副詞用法「目的」] [否定の目的は単に not to ではなく、この形が多く用いられる。ただし、take care ; be careful の後では慣用的に not to を用いる。]

cf. Take care of yourself *not* to catch cold. (風邪をひかないように気をつけなさい。)

(4) too ~ for 人 to *do* 「非常に～なので人が…できない、人が…できないほど～だ」[副詞用法 (程度)]

= These problems are so difficult that most students cannot solve them.

(5) Would you like to *do*? 「…なさいませんか」 [I'd love to の to は代不定詞 (= I'd love to *come with you.*)]

【3】

解答

- (1) introduce (2) translate (3) move (4) not read
(5) to accept (6) to do

解説

- (1) (皆さん、お会いできて光栄です。自己紹介をさせてください。)
○使役動詞 (let) ○ 原形不定詞「Oが…するのを許す」
- (2) (私は彼にそれを翻訳させた。)
○使役動詞 (have) ○ 原形不定詞「Oに…させる」
- (3) (私は何かが背中で動くのを感じた。)
○知覚動詞 (feel) ○ 原形不定詞「Oが…するのを感じる」
- (4) (そのような邪悪な本を読むべきではない。)
○ had better (not) *do* 「…する [しない] 方がよい、…するべきだ [するべきでない」]
[否定語 not は原形不定詞の前。]
- (5) (我々は彼女にその申し出を受け入れさせることができなかった。)
○使役動詞 (get) ○ to *do* 「Oに…させる」
- (6) (彼は嫌々それをやらされた。)[「使役動詞 ○ 原形不定詞」は受動態の時、原形不定詞が to 不定詞になる。]
○ against *one's will* 「心ならずも、嫌々」

【4】

解答

- (「be 動詞 + to 不定詞」の用法)
- (1) あなたは私の部屋に入る前には必ずノックをしなければならない。[公式の義務]
(2) 彼の答えには間違いが1つも見当たらなかった。[可能]
(3) 試合に勝ちたいなら、トレーニングを始めなければならない。[意向]
(4) 私たちは8時に会う予定だったが、彼が約束を取り消した。[公式の予定]

【5】

解答・解説

- (1) 「全訳」下線部(1)参照。
 - in order to do 「…するために」
 - protect ～ 「～を保護する」
- (2) for hundreds of years
- (3) ウ ○ come to light 「明るみに出る」

全訳

発掘をするのに世界中で最も豊富にいろいろなものがある地域は中東である。人間はたぶんそこに最初の都市を作ったのであろう。(1)幸運なことに、乾いた空気と乾いた砂がこれら(都市)の多くを守るのに役立った。何千年もの間、都市は無事に、しかし人には忘れられて、砂の下深くに眠っていた。前世紀にそれらの都市が再び明るみに出た。

【6】

解答

- (1) ④ (2) ② (3) ②

全訳

私たちは、環境をコントロールすることによって生き残る。そして、そのコントロールは情報によって可能となる。これがないと、私たちは不安を感じ、何も知らない状態よりどんなことでも知っている方がよいと思うようになる。ある実験において、白ネズミは通路Aと通路Bのどちらかを繰り返し選ばなければならなかった。それぞれの通路の終点には1つの箱があって、その中に食べ物を見つけるチャンスはいつも50%あった。しかし、通路Bでは箱のすぐ前で、ある信号が食べ物があるかどうかを示していた。数日間の訓練の後、すべてのネズミが情報を得られる通路Bを選ぶようになった。

人間も、確かではないが不可避な結果について知ることへの、同じような選好を示す。将来についての私たちの不安はとても大きいことがあるので、何も情報がない状態よりも、よくない知らせでもある方がよいのである。知らせの性質とは関係なく、またその知らせから何も利益が得られなくても、私たちは、状況を知り、そうして不安感を抑える方を好むであろう。「便りが無いのはよい知らせ」ということわざほど不正確なものはどう見てもない。

しかし、完全に確かであるという状態を、人は必ずしも求めるわけではない。実際のところ、人間としての私たちの成功の多くは、環境の変化に対処する私たちの能力と、新しいやりがいのある経験を得ようとする私たちの傾向とに基づいている。登山や自動車レースのような気晴らしに人気があるのは、何らかの不確実性と危険を人間が必要としていることの証拠である。にもかかわらず、これらがあまりにも高いレベルに達すると、私たちはもう1度、将来についての情報を手に入れたいと思い、将来を掌握できるという感じが欲しくなるのである。

注

- ℓ. 8 ○ outcome 「結果」 (= result)
- ℓ. 9 ○ unavoidable 「避けられない」 < un-avoid-able
- ℓ. 10 ○ regardless of ～ 「～とは関係なく」

【7】

解答

- (1) The great novel is said to have been written by a housewife.
- (2) Lucy seems to have won the game.
- (3) I want a piece of paper to write on.

解説

- (1) 「その偉大な小説」が書かれたのは述語動詞より前の時。(完了不定詞) [= It is said that the great novel was written by a housewife.]
 - be written by ~ 「～によって書かれる」(行為者を表す前置詞 by)
- (2) 「ルーシーが試合に勝った」のは述語動詞より前の時。(完了不定詞) [= It seems that Lucy won the game.]
- (3) 形容詞用法「限定」の不定詞を用いる。前置詞 on を落とさないように注意。
 - a piece of paper 「1枚の紙」〔「紙」を表す paper は不可算名詞なので a paper とすることはできない。「数」を表す場合は a piece [sheet] of を用いる。〕
 - cf. two pieces [sheets] of paper

4章 分詞

要点

■ 確認問題 1

解答

- (1) ウ「友達がベストセラー小説を貸してくれたが、ひどく退屈なものだった。」
- (2) イ「木の下に寝ている犬は隣の人の犬だ。」
- (3) イ「先生は何人かの生徒が授業中に居眠りをしているのを見つけた。」

■ 確認問題 2

解答

- (1) ア「現代は情報技術時代だと言われるのをよく耳にする。」
- (2) イ「パーティは非常に騒々しかったので、私は話を聞いてもらうのずっと大声を出さなければならなかった。」

■ 確認問題 3

解答

- (1) エ「ベストを尽くしてきたので、ジェーンは自分が選んだ大学に入学を認められることを確信している。」
- (2) ウ「少し離れて見ると、その大きな岩は人の顔のように見える。」
- (3) ウ「嵐の日だったので、ティムは仕事のあとでジムへ行くのをあきらめて帰宅することに決めた。」
- (4) ウ「講演者は終わりのベルが聞こえなくて、さらに 30 分話し続けた。」

■ 確認問題 4

解答

- ウ「ロッキングチェアに座っていた若い女性は、太陽がまぶしいので片手で日よけをしながらパットを見上げた。」

問題

【1】

解答

- (1) standing (2) spoken (3) sleeping (4) dying
(5) proposed (6) raising (7) astonished (8) relieved
(9) exciting (10) excited (11) refreshing (12) done
(13) going (14) written (15) touched (16) killed

解説

一般的に現在分詞は「…している」という能動の意味を表し、過去分詞は「…される」という受動の意味を表す。

- (1) (門の所に立っている紳士は私の叔父です。)[分詞が at the gate と修飾語を伴うので名詞の後に置く。]
(2) (この表現は口語英語で用いられている。)
○ spoken 「口頭の, 口語の」[分詞形容詞]
(3) (眠っている赤ん坊を起こさないように静かにしていなくてはならない。)
(4) (その女の子は瀕死の犬の面倒を十分にみた。)
○ dying 「死にかかっている」[分詞形容詞]
○ take care of ~ 「~の世話をする」(= look after ~)
(5) (私は彼が提案した計画に同意する。)
○ agree to ~ (事柄)「~に同意する」
(6) (右手を挙げている子はネッドだ。)
(7) (その光景に驚嘆して立っていた。)[自動詞の補語になる]
(8) (彼が無事に帰ったと聞いてほっとしている。)[自動詞の補語になる]
○ safe and sound 「無事に」
(9) (ボクシングの試合はハラハラするものだった。君も見るべきだったのに。)
○ exciting 「(人を)興奮させる, ハラハラさせる」[分詞形容詞]
○ should have *done* 「…すべきだったのに(しなかった)」
(10) (観客はますます興奮した。)
○ excited 「興奮した, わくわくした [← 人が興奮させられる]」[分詞形容詞]
○ 比較級 and 比較級 「ますます…」
(11) (青い海は目の保養になる。)
○ refreshing 「すがすがしい, 元気づける」[分詞形容詞]
(12) (肉をよく焼いてもらいたい。)
○ like O C (過去分詞)「OがCされるのを好む」
○ done 「調理された」[分詞形容詞]
(13) (私たちは私たちの機械を作動させた。)
○ set O C (現在分詞)「OをCさせる [Cの状態にさせる]」

- (14) (彼は自分の名前が壁に書かれているのを見つけた。)
 ○ find O C (過去分詞)「OがCされる〔されている〕のを見つける」
- (15) (肩に触れられるのを感じた。)
 ○ 知覚動詞 (feel) O C (過去分詞)「OがCされるのを感じる」
- (16) (その老人は一人息子を戦争で亡くした。)
 ○ 使役動詞 (have) O C (過去分詞)「OをCされる, Cしてもらう」

【2】

解答

- (1) Seeing her
 (2) Being rich
 (3) It being a rainy day
 (4) Having finished my homework
 (5) Not knowing where the station was
 (6) Walking along the street
 (7) There being no vacant seat in the theater
 (8) Left alone
 (9) Spring having come
 (10) Admitting that he is a great scientist

解説

- (1) (彼は彼女を見ると、背を向けて走って逃げた。)[時の分詞構文]
 (2) (彼は金持ちだったので、輸入車を買うことができた。)[理由の分詞構文]
 (3) (雨降りだったので、私たちは屋内で遊んだ。)[理由の独立分詞構文]
 (4) (宿題をやってしまったので、何もすることがない。)[理由の完了分詞構文]
 (5) (駅がどこにあるのかわからなかったため、ある女性に行き方を尋ねた。)[理由の分詞構文(否定語 not は分詞の前にくる)]
 (6) (通りを歩いていた時、彼女は偶然父に会った。)[時の分詞構文]
 ○ happen to do「偶然…する」
 (7) (劇場には空席がなかったので、彼らは立っていなければならなかった。)[理由の独立分詞構文(there が分詞の主語の働きをする)]
 (8) (彼は1人にされた時、何をすべきか途方に暮れた。)[時の受動態の分詞構文(being は一般的に付けない)]
 ○ be at a loss what to do「何をすべきか途方に暮れる」[= don't know what to do]
 (9) (もう春がやってきたので、気候がよくなるだろう。)[理由の独立・完了分詞構文]
 ○ now (that) ~「今や～だから、～である以上」[接続詞]
 (10) (彼は偉大な科学者だということは認めるが、人間として彼を尊敬できない。)[譲歩の分詞構文]
 ○ respect ~ as ...「～を…として尊敬する」

【3】

解答

- (1) Seen (2) Compared (3) arriving (4) paid (5) considered
(6) crossed (7) Having been read (8) speaking

解説

受動態の分詞構文では being は一般的に付けない。

- (1) 受動態の分詞構文〔分詞構文の主語は主節の主語 it に一致。〕
= If [When] it is seen from a distance, ~
- (2) 受動態の分詞構文〔分詞構文の主語は主節の主語 he に一致。〕
= If he is compared with her, ~
○ compare A with [to] B 「AをBと比べる」
- (3) 付帯状況の分詞構文〔動作や出来事が続いて起こる場合〕
- (4) 受動態の独立分詞構文〔分詞構文の主語と主節の主語は一致しない。〕
= After the bill was paid, ~
- (5) 受動態の独立分詞構文〔分詞構文の主語と主節の主語は一致しない。〕
= If all things are considered, ~
- (6) ○ with O C (過去分詞) 「OをCされた状態で」〔付帯状況〕
- (7) 受動態の完了分詞構文〔主節の述語動詞より前の時, または完了を表す。また「原因・理由」を表す分詞構文では being [having been] が見られることもある。〕
= As [Because] the magazine had been read, ~
○ throw away ~ [~ away] 「~を捨てる」 (= discard ~)
- (8) 慣用的な分詞構文
○ strictly speaking 「厳密に言えば」
○ illegal 「不法〔違法〕の, 非合法の」 (↔ legal)

【4】

解答

A.

- (1) ② (2) ② (3) ① (4) ③ (5) ④ (6) ③ (7) ②

B. ②, ⑥, ⑦, ⑧

全訳

私が彼に会った最初の時、誰もが彼のことを正気でなく凶暴であると思っているようだった。しかしながら、私は彼に引きつけられ、次第に新しい友情が2人の間に芽生えた。事の起こりは、私がニューポート港のヨットを訪ねた日である。

友人のリチャードがそのヨットの持ち主であった。彼と彼の妻のところに、親類の2人の女性が夏の間一緒に滞在していた。ちょっと立ち寄って挨拶をしたかった。というのも、リチャードとはいつも一緒に釣りをして楽しんだ仲であったし、それにその2人の女性に会ってもみたかったからである。

ヨットの近くまで行ったが、人の気配は全くなかった。皆、陸へ上がったのだらうと思った。

けれどヨットは完全に空っぽというわけではなかった。ふと見ると、小さな生物がデッキの上に座り、疑いの目でしかも恐そうに私をじっと見ていた。

その時わかったが、私が着く前にヨット上で何か恐ろしいことが起こっていたのだ。デッキにはいろいろなものが壊されて散乱していた。その動物が飼われていたと思われる小さな家も壊された物の中に混じっていた。

突然、その生物は空中に舞って長くたるんだロープに飛び乗った。そして、私の近くへやって来た時にわかったが、その生物はサルであった。彼は私を見下ろしながらロープを前後に揺すり、ありとあらゆる離れ業や体操をやっていた。揺れているロープの上でやっているのを見ているのは実に面白かった。私自身、学生時代には体操の練習をしたことがあったので、そのサルがやってみせてくれていることはほんのちょっとしたことさえ、何もかも格別に魅力を感じずにはいられなかった。彼に優しい声で話しかけ始め、彼の芸に大いに興味があると伝え、もう少しやってみせてほしいと頼んだ。

サーカスのスターのように彼は2本のマストの間のワイヤーの上を見事にバランスを取りながら歩いて、それから私の方へ大きくジャンプした。ためらいもせず、彼に手を差し伸べてやった。彼は私の横に座り、私の唇の動きを1つ1つじっと見つめながら「君は本当に素晴らしい名人だよ。」という私の言葉を聞いていた。お互いにずいぶん長い間友人であったかのように、彼は私のひざの上に乗ってきた。

ちょうどその時、後ろの方が騒々しくなった。振り返ると、小さな船が来るのが見えた。船首にはリチャードの奥さんと警官が1人乗っていた。その警官はライフルを携えていた。その後ろには女性が2人そわそわした様子で指差しながら座っていた。船がヨットに近づいてきた時、彼らは私に向かって何かを叫び始めたが、何を言っているのか半分しかわからなかった。彼らがヨットに乗り込んでくると、サルがとても興奮したので、私はヨットの上で何があったのかすぐに理解できた。

リチャードは、プレゼントにサルをもらったのだった。そしてすぐに、彼らは離れがたい友人となった。その2日前、リチャードは仕事で町から離れなければならなくなり、そのサルの世話を奥さんに任せた。リチャードと離れることになって、そのサルはとても寂しがり、物を壊し始めた。そして、女性たちが止めさせようとした時に、彼女たちに襲い掛かったのだ。彼女たちは警察の助けを求めるために小さな船で逃げ出したのであった。

激論の末、私は警官にそのサルを撃ち殺さないように説得した。私は、リチャードが戻ってくるまでそのサルの世話をすると約束した。リチャードだったら、「正気でないペット」をどう扱ったらよいか決められるだろうと思ったのである。

3人の女性と警官をヨットの上に残して、私たちはボートで立ち去った。周囲に心を乱す人もいなくなったので、そのサルは次第に落ち着きを取り戻した。私たちが岸に近づく頃には、私の新しい友人は私の前で大人しく座っていた。

注

- ℓ. 2 ○ gradually 「徐々に」
- ℓ. 5 ○ drop by 「立ち寄る」
- ℓ. 8 ○ ashore 「陸上へ」
○ creature 「生き物」

- ℓ. 14 ○ back and forth 「前後に」
- ℓ. 16 ○ every least thing 「最も取るに足りないささいなこと→どんなささいなことでさえ」
〔even を補って解釈する最上級の用法〕
- ℓ. 18 ○ gentle 「優しい」
- ℓ. 21 ○ extend ～ 「～を伸ばす」
- ℓ. 26 ○ rifle 「ライフル銃；小銃」
- ℓ. 27 ○ nervously 「神経質に」
- ℓ. 29 ○ on board 「車〔船〕内に」
- ℓ. 35 ○ flee 「逃げる」 > fled
- ℓ. 41 ○ upset 「～を狼狽^{ろうばい}させる」

【5】

解答

- (1) Written in simple [plain] English, this book is easy to read.
- (2) The last bus having gone, we had to walk home.
- (3) Taking his age into consideration [account], he looks young. [= Considering his age, he looks young.]
- (4) Judging from what the critics say, his new play is worth seeing.

解説

- (1) 受動態の分詞構文〔この場合「原因・理由」を表す。〕
○this book is easy to read〔形容詞を修飾する副詞用法の不定詞。不定詞が文の主語を意味上の目的語にとる。〕
- (2) 独立分詞構文〔「出てしまった」とあるので、主節の述語動詞より前の時を表す完了形の分詞構文にする。〕
- (3) ○take ～ into consideration [account] = Considering ～ 「～を考慮すると」〔慣用的な分詞構文〕
- (4) ○judging from ～ 「～から判断すると」〔慣用的な分詞構文〕
○ the critics 「批評家たち」
○ worth …ing 「…する価値がある」

E1TS/E1T
高1 難関大英語 S
高1 難関大英語



会員番号	
------	--

氏名	
----	--

不許複製